

令和5年度 授業改善推進プラン教科別計画 【音楽科】

学年	作成者	現状分析による課題	具体的な改善策 「いつまでに」・「どのように」・「どの程度」	
			短期的な改善策	中・長期的な改善策
1年	小幡	①授業に対する意欲関心態度は、個人やクラスの雰囲気によって差があるが、学年全体としてとくに歌唱活動は歌うことが好きな生徒も多く、コロナ禍で3年間のマスク生活と歌えない小学校時代の音楽の授業で、発声など口を開けることへの抵抗感は拭えないが、頑張ろうとしている姿がみられる。 ②読譜力や音楽記号について、小6までに学習しているはずのものが、身につけていない。まずは譜読みの力をつけさせたい。	①歌唱については発声や歌詞の表現などを中心に、音程やハーモニーを聴き取り、各自の歌唱技能や表現に繋がるよう指導していく。 ①②鑑賞に関しては、3学期箏の学習とともに日本の音楽について触れていく。 ②読譜力については2学期後半からの創作活動で、まず始めに音符や休符のリズムを把握し、作曲、演奏ができるように指導していく。	①学年の中でピアノ伴奏ができる生徒が少なく、これは今後どの学年にも起こりえる課題と感じている。現1年は来年度の合唱コンクールの課題曲については、ア・カペラにしないと、成り立たないと危惧している。ア・カペラは通常4声で構成されているので、それまでに男声を2つに分ける必要がある。しかし、最近の生徒は中性化が叫ばれ、低音を出せる生徒が少ない。選曲も含めて大きな課題と受け止め、発声法や指導法を模索していく。
2年	長南	①授業に対する意欲や態度は、個人やクラスの差がある。練習自体に集中して取り組むことができない生徒も多くみられ、特に歌唱活動に関して、男子は変声途中の生徒が多く、声を出すこと自体に苦手意識を感じている生徒が多くみられる。 ②全体として、音や言葉で表すことに苦手意識を感じている傾向にある。	①表現活動に関しては、基礎的・基本事項の定着を図り、音符や休符に言葉をあてはめたりしながら、演奏の練習を積み重ねるようにするなど、活動自体に取り組みやすくする手立てを行う。 ②鑑賞に関しては、内容の説明を具体的にし、教科書を読んで曲を聴くだけの鑑賞にならないよう、留意する。	①②常時活動などに、楽典の基礎的・基本事項の確認を行い、それを積み重ね定着を図っていく。学習した内容を実際の演奏場面で活用する場を積極的に設け、基本事項の定着を図っていく。 ②音や音楽を言葉や文章で表す活動を積極的に設けていく。音楽室に掲示しているヒントとなるような掲示を積極的に活用するよう促していく。
3年	長南	①おおむねどの活動にも意欲的に取り組むことができているが、記譜するための知識や譜面から読み取る能力については、内容が定着していない生徒が多い。 ②授業に対する意欲や態度には、個人やクラスの差がある。 ③鑑賞については、音楽を形作っている要素が生み出す雰囲気を受感することが難しい。	①②表現活動に関しては、楽典の基礎的・基本事項の確認を改めて行っていく。演奏する際も楽譜に注目させながら、学習内容を活用する場を設けていく。 ③鑑賞に関しては、内容を具体的に説明し、単純に教科書を読んで曲を聴くだけの鑑賞にならないよう、音楽の構造や音楽を形作っている要素に着目できるように留意する。	①②小テストなども定期的に行いながら、楽典の内容に触れる機会を増やしていく。さらに実際の演奏場面で学習内容を活用する場を積極的に設けていく。 ③鑑賞に関しては、改めて音楽を形作っている要素それぞれについて確認をする時間を設ける。ただ音源を聴くだけでなく、要素それぞれに注目できるような聴き方を身に付けるために、聴くポイントや部分を絞って鑑賞させるようにする